

◆優良賞◆

心の壁

金 目 中 学 校 三 年

近 藤 那 央

小学五年生のクラス替えを機に、私はこう決めました。優しくて、思いやりがあつて、みんなに好かれるような子になろう、と。小学四年生までが、いじわるで、誰にも好かれていなかったわけではありません。しかしときに、自分の良くない評判を聞くことができました。

今では、人間そのようなものだと思います。誰かに好かれれば、誰かに嫌われることもある。けれど当時の私は、悪いうわさが仲の良い子に伝わって、嫌われたらどうしよう、と怖くてたまりませんでした。そこで、本当の自分ではなく、みんなが理想とするような優しい子を、学校で演じようと考えました。そうすれば、悪いうわさが流れることは一切なくなるのではないかと。

学校では、自分の発言を深く考えてから話すようになりました。相手の気持ちを傷つけないためには、どのような言葉をかければ良いのか、相手は、どのような言葉を求めているのかを必死で考えました。確かに、自分の気づかないうちに友達を傷つけてしまうことはなくなりました。そして、「優しいね」と多くの人に言われました。けれどもその言葉を聞く度に、自分を守るための言葉を並べているだけ、と複雑な気持ちになっていました。

しだいに周囲の人々は、いつもその場に合った発言だけをする私に距離

を感じていくようでした。自分から壁をつくり、距離を置いてしまっているのですから、当然です。いきいきとした会話もできず、すぐに話がとぎれてしまうことが多々ありました。相手に申し訳なさを感じるとともに、自分を不甲斐なく思いました。こうなるくらいなら、全体からの評価など追求しなくて良かったと。

そのような状態のまま、中学生になりました。このままの自分ではないと思ひ、積極的な発言を意識して話すようにしました。ところが、深く考えて話すことが習慣化していて、すぐには変えられません。そんなとき部活動が始まり、私は卓球部に入部しました。同じものに取り組んでいる友達とは、常に共通の話題もあり、なんだか気楽に話すことができました。また、先輩・後輩という新しい立場も経験し、学年を超えた交流でコミュニケーション能力を身につけられたように思います。

臆病だったばかりに、自分を隠し通そうと思つてしまつたあの頃から四年。今までの経験を通して、人には嫌なところの一つや二つあつて、その嫌なところや弱いところも含めて好かれていくものなのだ、と学びました。昔の私と同じような悩みを持つ人がいたら、教えてあげたいです。みんなに好かれようとすることも大事だけれど、ありのままの自分を受け止めてくれる一部の人を見つけるほうが、きっと楽しく生活できるということとを。